

町消防団第5分団に感謝状！

寄居警察署長から人命救助の功勞により贈呈

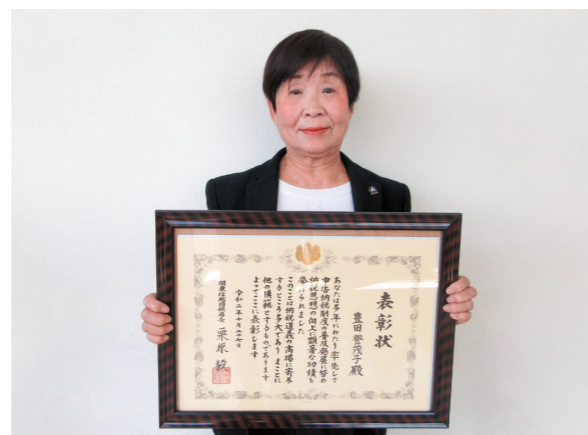
12月21日に寄居警察署長から町消防団第5分団に対して感謝状が贈呈されました。12月5日夜間、牟礼地内を警戒走行中の第5分団団員が、バイク運転中に河川に転落して、身動きがとれない状態で救助を求めている男性を発見、無事救助しました。生命の危機が迫っている中で、迅速な救助を実施し救命に尽力したことが評価されました。佐藤分団長は「不慮の事故に対応してくれた団員のことを誇りに思います。また、私たちの活動が役に立ててうれしく思います」と話してくれました。



豊田登茂子さんが関東信越国税局長納税表彰

納税制度の普及に貢献

豊田登茂子さん（露梨子）が、申告納税制度の普及発展と納税思想向上の功績で、関東信越国税局長から表彰されました。「税を考える」啓発運動として、熊谷税務署管内の中学生を対象に「税についての作文」を募集し、今回、応募総数が全国1位となりました。税の役割と仕組みを認識してもらうよい機会となり、納税に対する理解を深めることに貢献されました。豊田さんは「関係各位の皆様のご推薦により思いもかけない大きな賞を賜り心から感謝の気持ちでいっぱいです」と話してくれました。



寄居町の  
民話とは何ぞや？

ねこ寺

このお話は、鉢形城がまだ栄えていたころのことです。末野に少林寺という、たいそう有名なお寺があります。このお寺のお坊さんは、一匹のねこをかわいがって育てていました。

ある日の夜のことです。お寺中が寝静まって、あたりがひっそりとしてきたころ、茶釜のふたをたたく音がきこえてきました。お坊さんが目をさまし、

「こんな夜中にいったいだれがたたいているんだろう？」と、ふしぎにおもい、そつとようすを見にいくと、なんといつもかわいがっているねこが、茶釜をもつておどつていたのです。お坊さんがどんなにおどろいたか想像できますね。ところが、ねこのいたずらは、つぎの夜もつづき、あたりは灰だらけになってしまいました。そこで、お坊さんはおもいきって、ねこを放りだすことに決めました。つぎの日、お坊さんは、ねこにごちそうをだし、

「これまで飼ったが、もうこの寺には、おくわけにはいかない！」と、いいわたしました。すると、ねこは神妙にうなずき、ひとつの数珠をお坊さんにおくり、いままでのお礼をいしました。それから、ねこはこういったのです。

「きたる\*月\*日に、鉢形城の城主が死ぬ。その葬式のと き、私はその棺をうばって、天にまきあげてしまおうつもりだ。そのとき、あなたは天にむかって、『万年山少林寺住職ここにあり』と、高らかにとなえて、この数珠を天に投げつけるがよい。そのときは棺をもとどりにしてあげよう。」

と、いいのこして、すがたをけしてしまいました。そして、とうとう\*月\*日が、やってきました。不思議なことに、ねこの予言どおり城主がなくなり、その葬式の最中に棺が高くまきあげられてしまいました。人々はびっくりしてしまい、おそれおののきました。このとき、お坊さんがねこに教えられたとおり、

「万年山少林寺住職ここにあり。」と、となえ、数珠を投げつけると、棺はもとのところにもどりました。それから、

「少林寺のお坊さんは、えらいお坊さんだ。」と、みんながいうようになり、お寺の評判もたかくなつてゆきました。

出典「こどものための寄居町民話集」

寄居町をPRしてみませんか？

ふるさとサポーター募集！

町では、多くの方が寄居町に関心と愛着を持っていただけるよう「寄居町ふるさとサポーター」制度を設置し、町内外から、寄居町を応援していただくふるさとサポーターを募集しています。

ぜひ登録いただき、寄居町をサポートしてください！詳しくは町公式ホームページをご覧ください。

▶対象

寄居町に親しみと感心、愛着をお持ちの方（年齢、職業、居住地等問いません）

▶サポーターの任務

寄居町の魅力や特産品等のPRをできる範囲で行っていただきます。年に一度程度、活動報告書を提出いただきます。報酬は支給いたしません。

例えば…

**CASE1** 寄居町の特産品や日常風景の写真をふるさとサポーターのフェイスブックや個人のSNS等で発信していただく。

**CASE2** 友人や親戚の方に寄居町をPRしていただく等

▶登録証の発行

登録完了後「寄居町ふるさとサポーター登録証」および「PR用名刺」を発行します。



※名刺のデザインは変更になる場合があります。

▶特典

町からの情報、広報誌、パンフレット等を定期的 に送付させていただきます。

▶申し込み・問い合わせ

総務課 ☎581・2121内線313、Eメール sm011g@town.yorii.saitama.jp